

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

15 (通巻19号)

平成16年7月6日発行

【目次】

こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス - 春はやっぱり「桜餅」だった！	1
こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック - 屋号のヨミをしらべる	2
平成15年度レファレンス統計 大きな図書館から公民館図書室まで広くご利用いただきました！！	3
市町村のみなさんからの発信 レファレンス研修は“タノシイ”？ 上磯町立図書館 藤井利明氏	4
使ってますか？「道内公共図書館 Web 版蔵書検索横断検索」	5
Librarian's Box (ししょぼこ) 『情報大航海術 テーマのつかみ方・情報の調べ方・情報のまとめ方』 (片岡則夫著 リブリオ出版 1997)の効用	6
お知らせ その1 貸出？所蔵調査？申込書の様式は？	7
その2 レファ研 今年度も開催します！	8
News	9
1 「国立国会図書館総合目録ネットワーク」リニューアル！！	
2 道内公共図書館 Web OPAC 公開館増加！	
3 「レファレンス協同データベース実験事業」(国立国会図書館)に参加	
4 今年度第1回(春期)移動図書館事業に参加	
5 『公立図書館におけるレファレンスサービスに関する実態調査報告書 2003年度』発行	
6 国会図書館、平成15年度利用者アンケート調査結果まとまる	
編集後記	11



北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521

FAX 011-386-6906

ホームページ <http://www.dokyojoi.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/top.htm>

こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス -

春はやっぱり「桜餅」だった！

当課には、食べ物に関する質問が多くよせられます。「ひやむぎに入っているピンク色の麺は何のため？」「ヤーコンの成分は？」「調べ学習でハウレンソウの品種について調べているんだけど。」...etc. 今回の「こんなのきました」は、今年の春に来た、この食べ物に関するレファレンスをご紹介します。(文中セ:当講稿番号)

事例 その1 **桜餅の種類には「道明寺」ともう一つあるらしいが、どんなものか？またその起源は？**

カウンターで受けた質問です。『日本大百科全書』(小学館 1986 セ:R031/NI)や、『和菓子の辞典』(奥山益郎編 東京堂出版 1983 セ:R588.36/W)、『話の大事典』(日置昌一著 名著普及会 1983 セ:R031.4/HI)などによると、桜餅の起源は1717(享保2)年。桜の名所として知られた江戸向島の「長命寺」で、門番の山本新六が参詣客に売り出したものが始まりとのこと。関東風のこの桜餅は、焼き皮でこし餡をくるんだものを、2~3枚の桜の葉で包んでいます。当初焼き皮にはうるち米を用いていましたが、後に葛粉に変わり、現在は小麦粉が使われていて、着色しないのが「長命寺」の元祖桜餅の特徴とあります。

北海道の私たちがよく食べる道明寺種(粉)を使った薄紅色のタイプのものは、実は関西風だそうです。「道明寺」は、大阪府藤井寺市にある寺で、そのの尼僧が作った、もち米を蒸して乾燥させ粗く挽いた乾飯が有名になり、道明寺糰、道明寺種と呼ばれるようになったようです。

事例 その2 **桜餅に使われている葉はどんな種類でもよいのか？**

こちらはあるまちの図書室から来た質問です。葉の種類など考えてみたこともなかったのですが、「一般的な和菓子だし、出てくるだろう」と取りかかりました。ところが「塩漬けの桜の葉を使う」ということまでは書いてあるものの、桜の種類まで書いてある資料がなかなか見つかりません。

すると課員の一人が、「そういえば少し前に読んだ『サライ』に載っていた！」とその号(16巻5号 2004.3)を探し出してきて、「オオシマザクラ(大島桜)」の葉が桜餅用の塩漬けに使われることが判明！(ちなみに桜湯などに使う花の塩漬けには、「カンザン(関山)」という大輪の八重桜が使われるそうです。)また、『百分の一科事典 サクラ』(スタジオ・ニッポニ編 小学館 1998 小学館文庫セB049/HY)にも同様の記述がありました。

しかしなぜオオシマザクラが塩漬けに適しているのかまではわかりません。課員総出で「あれは見た!?これは見た!？」と知恵を持ち寄り、そこで登場したのが『新・食品事典 8 漬け物』(河野美編 真珠書院 1991 セ:R588.03/SH/8)です。この資料によると、オオシマザクラの葉は「ふつうの桜や八重桜にくらべて大きく、またやわらかいので塩漬けに適している」とありました。一同ほっと一安心して、こちらの資料も紹介したのでした。

なお、この『新・食品事典 全14巻』は、見かけによらず(19cmで表紙もちょっと古風な感じですが...)優れたもので、当課ではこれまでも大活躍しています。

あなたのまちの図書館(室)に、食べ物に関するちょっと変わった質問が来た時には、ぜひとも当課までお問い合わせください！

こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック -

屋号のヨミを調べる

時々来る質問に、屋号があります。たとえば、（まる）の中に「井」と書いて「マルイ」と読むように、記号と文字が組み合わさった記号屋号を指して、何と読むかというものです。

「屋号を調べるならこれ!」というような決定版の資料があれば収集したいとかねがね思っていたのですが、国立国会図書館のNDL-OPACや総合目録などを見ても各地の地域資料が大半のようで、当課でも、『熊石町の屋号』(請求記号:H672.1815/Ku)ほか関連の北方資料を参照することがほとんどでした。そんな中、昨秋、次の資料が刊行されました。

『屋号語彙の総合的研究』(岡野信子著 武蔵野書院 2003.10 278p 27cm 本体価格5000円 ISBN4-8386-0210-3 請求記号:384.4/Y)

屋号をいうことは、屋号の種類・歴史、人々の屋号観等をテーマに、家意識との関連を探る本書は、著者の26年に及ぶ全国各地の調査・研究を基に総合的にまとめられ、巻末には参考文献が多数掲載されています。

記号と文字の合成記号である「家印(いえじるし)」は、農具や漁具につけてその所有の家を示したり、商家の商標として用いられてきた記号で、それをそのまま屋号としたのが「家印屋号」と呼ばれています。

本書「第1部第1章第12節 家印屋号」(p60~62)では、全国の分布状況と、各地の掲載資料のほか、その読み方の規則性や、屋号に託された心意なども書かれています。また第4部第4章(p245~255)では、南茅部町の家印屋号を採り上げ考察しています。屋号を、部首ともいべきその「つくり」によって分類し、101のヨミの実例を挙げています。実例数自体は多くはありませんが、上から下へ、外から内へ、左から右へといった読み方の規則性と、全国共通らしいことが示され、いよいよ調べきれなかったときにも応用・推測ができそうです。

勿論、家印以外にも様々な屋号が集録・整理され、ヨミ・意味・由来や典拠などが記されています。命名の由来で分類しただけでも、「所在場所」「先祖名」「家格・家歴」「生業」等、12種類あります。装丁は地味な研究書ですが、面白いところでは、「あだ名屋号」の例に、アメリカで成功したおじいさんの容貌が蛸に似ていたことに由来する「タコ」や、昔美男が居たから「ピナン」というのもありました。屋号を唄う遊び唄など、ちょっと眺めているだけでも楽しくなる記述もあります。本文中にも多数文献が紹介されているので、芋づる式に原典に当たることができます。

他の資料とも使い合わせて、是非ご活用ください。

参照:『日本のしるし 伝承デザイン資料集成 商家・諸職篇』(岩崎美術社 1986 727/Ni)
全4冊の内、1,2は家印です。道具や建造物の家印の写真が多数収録されています。
ヨミを調べるというものではありませんが、巻末に解説・文献もあります。ご紹介まで。

大きな図書館から
公民館図書室まで

平成 15 年度 レファレンス統計

広くご利用いただきました！！

平成 15 年度も札幌市、北見市、旭川市などの規模の大きな図書館から公民館図書室まで広くご利用いただきました。資料が豊富な図書館では、さらに多種多様な資料が求められますし、小さな町の図書室などでは、利用者の要求に応えるべく担当職員のご苦労が感じられます。

さて、当課の処理件数は 19,810 件で前年比 7%減となりました。公共図書館 OPAC 公開や横断検索が進んだことや、個人のインターネット環境の整備に伴い、調べ物が身近でできるようになったことの影響を感じますが、Web OPAC 公開館の相互貸借に関わる負担の増大といった問題もあります。新刊書については、当館においても積極的にリクエストとして対応します。お気軽にご利用ください。

平成 15 年度参考調査課業務実績

1	合計処理件数	19,810 件	(平成 14 年度実績	21,409 件)
2	事項調査	1,798 件	(平成 14 年度実績	2,009 件)
	(解決)	1,691 件 (94%)	(未解決)	107 件 (6%)
3	所蔵調査	11,213 件	(平成 14 年度実績	12,899 件)
	(所蔵有)	4,001 件 (36%)	(所蔵無)	7,212 件 (64%)
4	所蔵館調査件数	6,799 件	(平成 14 年度実績	6,501 件)

平成 15 年度受理件数 (事項調査 + 所蔵調査 + 所蔵館調査) ベスト 20

1	札幌市	3699 件	6	朝日町	622	11	福島町	317	16	釧路市	216
2	北見市	1849	7	伊達市	507	12	中標津町	297	17	日高町	209
3	旭川市	903	8	音更町	389	13	白老町	275	18	歌登町	202
4	滝川市	873	9	砂川市	373	14	蘭越町	257	18	根室市	202
5	余市町	668	10	倶知安町	334	15	羽幌町	253	20	小平町	186

平成 15 年度所蔵館調査紹介先件数内訳 (当館が他館を紹介した件数です)

紹介件数合計 7,007 件 (平成 14 年度 6,060 件)

内訳

道内公共図書館 5,583 件

(平成 14 年度 4,518 件)

紹介件数が多かった図書館

札幌市	704	旭川市	557	江別市	524
恵庭市	455	千歳市	378	苫小牧市	372
北広島市	298	石狩市	287	深川市	181
美幌市	180	その他	1647		

道内大学図書館 398 件

(平成 14 年度 518 件)

道外公共図書館 898 件

(平成 14 年度 893 件)

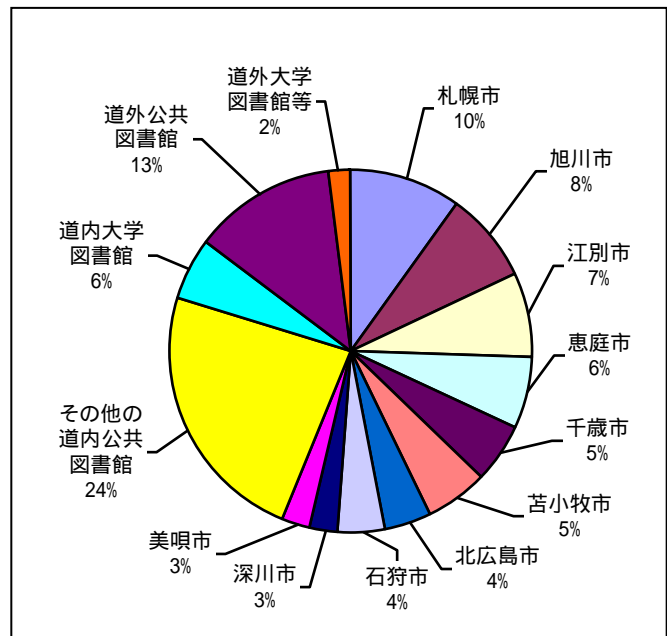
道外大学図書館等 128 件

(平成 14 年度 18 件)

参考調査課では各図書館のご協力のもと、所蔵館調査を進めてきました。昨年度はより道内公共図書館の Web OPAC 公開が進み、道内で解決できた件数が増え、紹介先の割合も分散化しています。

一方、専門書・外国語資料・道外の郷土資料についての問い合わせが増加し、道外大学図書館(含む専門図書館)を紹介する件数も増えました。

従来の所蔵館調査協力館にあわせて、Web OPAC 公開市町村の皆さんには、道内での解決のため、ご協力いただくケースもありますので、どうぞよろしくをお願いします。



当館は、渡島教育局主管の教員研修「初任研」（平成10～14年度）、「経験者研」（平成11～14年度）、平成15年度からは「教職10年経験者研修」の会場になっています。地域の図書館の役割を伝えることを柱にしながら「地域の教育力を生かした学校図書館の在り方」「公共図書館と連携した学校図書館の運営」「図書館を使つての調べる学習体験」という内容で行っていますが、その中でも1番好評なのがレファレンス研修（調べる学習体験）です。言葉や地名、事柄等を調べる問題を5問程度用意して1時間30分～2時間取り組んでいただきます。

例題1：上磯町にあるトラピスト修道院の正式名称とこの修道院の特徴は何ですか。

例題2：「四三の星」という言葉があるそうですが、これはどの星のことですか。

例題3：学校で「明治維新に関わりのある人物を5人選び、その名前と生年月日、出身地を調べなさい。」という宿題が出されたので教えて下さい。

このような問題で、1と2については、複数のツールにあたる必要性を認識してもらうために。また、3については、答えを与えるのではなく、資料の利用指導に重点を置く事例として出題しています。（せっかくですからあためて下さい）調べる時間は、たっぷり用意しているつもりですが、昼食の時間を費やしてまで取り組む方も珍しくありません。しかし全問終了される方は稀です。

ここでいつも感じるのは「資料を知る」ことの重要性です。どんな資料が揃っているのかが把握できていれば、半分の時間で十分だろうと思います。（買い被りすぎだという声もありますが…）

その点、図書館員は自館の資料を把握していますし、大好きな？レファレンス研修も十分にこなしているとなると、レファレンスのお客さんが恋しくて堪らないはずですね…。

ところがレファレンス研修では精力的に取り組む、的確な回答ができるのに、お客さん相手の実践となると途端にドギマギこちなくなる方が意外に多いのではないのでしょうか？

通常のレファレンス研修ではレファレンス・インタビューまでは手が届きません。難度の高い出題は可能ですが、掴み所のないお客さんからの“問い”には敵いません。しかも、誰かがお客さんの役をして、かなり惚けた質問をしたとしても実際のお客さんほど手強くはなれないのです。意識的に相手が理解しにくい“問い”を発すれば意地悪になってしまいます。そんな図書館員のドギマギ克服法は「実践あるのみ」と言いたいところですが、それなりの人数がいる図書館ではそうも言っていられませんが、そうなるややはり研修の積み重ねが大切になります。『Do - Re』にもしっかり目を通して、多くの事例を消化して自信をもって接客する。そして無防備な時に声をかけられてもドキッとしないために、ウロウロ・キョロキョロしているお客さんに自分から声をかけるのも有効です。「メモをせずにレファレンス・インタビューに集中し、関連資料のある書架に案内しながら戦略を練る。」（富士大学の斎藤文男先生から教わりました）

これができれば“気持”の方は、もう大丈夫！すべての図書館員が“レファレンス研修はタノシイ”ではなく“レファレンスは楽しい”になりますように！

使ってますか？「道内公共図書館 Web 版蔵書検索横断検索」

道内の市町村において公共図書館（室）の Web OPAC（インターネット上の蔵書目録）を公開するところが年々増えています（News 参照）。これらの OPAC を「一括して」検索できる総合目録について、当館においても来年度の機器更新に併せて具体的な検討を進めておりますが、同様に横断的に検索できるシステムが、平成 14 年度国立情報学研究所セミナーに参加された北海道大学附属図書館の村田邦恵さんにより作成されました。⁽¹⁾⁽²⁾ 既に多くの市町村の図書館（室）においても利用されているかと思いますが、システム作成に至った経過などについて、作成者である村田さんに当課宮本がお話を伺いました。

北海道の公共図書館では、大学図書館が関係する Webcat のようなツールがなく、また北海道大学においても「数多くある道内公共図書館の Web OPAC を一度に検索できたら便利なのにね。」という声もあり、セミナーの個別テーマとして「北海道の公共図書館 Web OPAC 横断検索システムの試作」を選ばれたそうです。

作成にあたっては、当時 41 館あった道内公共図書館の Web OPAC を検索方法やページのレイアウトにより 16 のグループに分類し、前方・中間・完全一致検索の別、全角・半角文字と大文字・小文字、漢字とヨミでの検索、検索可能標目、著者名の扱い、検索語の区切り、「」（かぎっこ）と・（中黒）の扱い、等についての分析を行ないました。検索語入力欄を 3 つ（書名、著者名、出版者についてプルダウンメニューで選択）にしたのは、なるべく検索できない館がでないように、という視点からの設定です。

検索結果は、検索が終わった順に表示されますので、時間がかかっているところは最後のほうに表示される仕組みになっています。作成時には、道立図書館を 1 番最初に表示させることも検討されたそうですが、そのような処理をするとその分待ち時間が長くなり、ブラウザを閉じられてしまうことが起きると思ったので、順不同（検索終了順）で表示させることにしたそうです。

研修により作成されたシステムですが、その後も改良し、新規の公開館もどんどん加えられています。今年 6 月 1 日には以下の道内の大学図書館を含めた横断検索システムも公開されました。⁽³⁾

現在は、北海道大学附属図書館のツール・システムの一部として位置付けられています。

村田さんの「地域貢献のため」、「多くの方々に使ってもらわないと意味がない」という言葉が印象的でした。

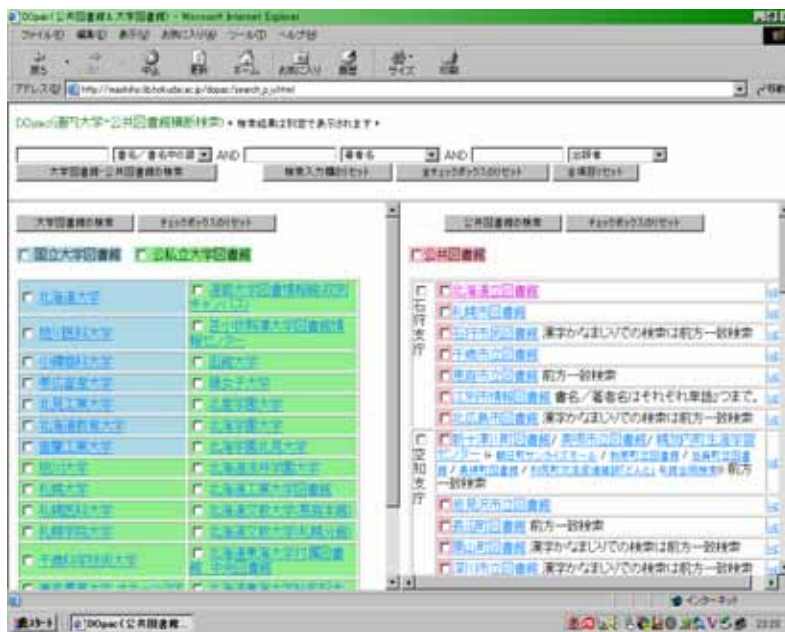
ところで、通称 DOpac。
皆さんは、どう呼んでいますか？

「ドゥーパック」

「ドオーパック」

「ディーオーパック」etc....

特に呼び方は決めていない（村田さん談）
そうです。



システムを上手に使うコツ：正しい書誌を確定した後“表記形”をそのまま入力！

- 参考 (1) 「平成 14 年度国立情報学研究所セミナー」実施報告 <http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/Seminar/>
(2) 『北海道地区大学図書館職員研究会記録 第 46 回』(北海道地区大学図書館協議会 2003)
(3) 「道内大学・公共図書館 Web OPAC 横断検索システム」 http://mashiho.lib.hokudai.ac.jp/dopac/search_p_u.html

少々古い本なのですが、内容は「目から鱗」の優れたものなので、是非 Librarian's Box (ししょばこ)に入れておきたいと思います。

著者は神奈川県高等学校で理科の先生をしています。また、先生たちのための講習会で「調べ学習の実践」などの講義を担当しています。この本は、著者が試みた自学自習の授業「大航海」の実践報告の体裁をとっており、第1の読者として想定されているのは、やはり中学・高校の先生たちなのですが、一般向けの「情報活用術」としても大変役に立ちそうです。

この本の美点(その1) 情熱 = 「学ぶ」醍醐味を伝えたい

従来の教育モデルが「定期航路方式」(目標に到達させる)とすれば、「大航海方式」は生徒が自分で目標を立て、各自が船長になって航海するイメージ。

現在の学校には生徒が自律的に学ぶ機会があまりにも乏しく、「学ばされている」ことに問題意識を持ち、生徒たちに自ら学ぶ喜びとその醍醐味を伝えたいという熱い情熱、そして愛情が感動的ですからあります。生徒たちに興味を持たせ、行動させ、そして完成の充足感を知ってもらうための様々な働きかけ。生徒との会話。「調べ学習」に興味がある先生方に、是非読んでほしいと思いますし、自学自習の場である図書館の職員も、原点に立ち返るという意味で一読をお勧めします。

また、実践的であるからこそ、次のような面白い話も登場します。

テーマを設定する過程で、生徒が考えたテーマが「科学的」か「科学的でない」か、判定のコツ。

テーマに「～の科学」とつけてみる

じっくりくれば 落ち着きが悪いのは要注意 「ピアスの科学」?

科学番組のテーマになるか

例えばテレビ番組『所さんの目がテン』のテーマになりそうなら、科学的なアプローチが可能とみる
図書館の棚から考える

迷う生徒には「400、500、600番台の棚を見ておいで」と声をかける

美点(その2) 「海」 = 図書館を知らせる

「第3章 図書館で情報を集める」で図書館の利用について説明されます。

著者の図書館像は次のように表現されています。

「図書館こそ生徒ひとりひとりが主体的に学ぶための施設です。この意味で、図書館は学校の中でも特別に貴重な空間です。私はこの空間で、この空間そのものを頼りにしてくれるような生徒を育てたいと思います。」(p.66より)

「図書館が味方」であることを理解してもらうために、図書館の仕組みや資料の多様性について説明し、「図書館はレファレンスするところ」であり、そこで「レファレンスの達人、司書さんに聞け」と展開されます。残念ながら多くの生徒は図書館を「本を借りるところ」と考えており、レファレンス・サービスはほとんど理解されていないことが指摘されています。

美点(その3) 図書館ガイダンスのヒント = 決め言葉

図書館司書には様々な引き出しが必要とされます。図書館の働きや効果を語る(表現する)能力もそのひとつでしょう。そんなとき、上に紹介したようなキャッチコピー風決め言葉が参考になります。

さて、本稿の結論。図書館ガイドブックを作り、学校へ出かけよう。

道立図書館で所蔵していることを確認している場合は、こちらの様式で貸出申込を!

図書館資料貸出申込書 (兼 FAX 送信票)

(/)

【申込日 年 月 日】

宛先	北海道立図書館 奉仕課・北方資料部	FAX 011-386-6906	TEL 011-386-8521
申込者	市立図書館	FAX: 012-345-6789	TEL: 012-345-9876 (担当:)

次の資料について、貸出を申し込みます。
貸出中の場合、予約は (要) / 不要)

請求記号	書名	著者	出版者	出版年	貸出・予約情報
1 S304 B	資料番号: 1106831793 バカの壁	養老 孟司	新潮社	2003	/ 期限 図書館 個人

請求記号と書名は必ず記入してください。

道立図書館を含め、どの図書館で所蔵しているか不明の場合は、こちらの様式で所蔵調査の申込を!

別記第1号様式その1

所蔵調査申込書 (兼回答書)

(/)

【申込日 年 月 日】

↑ FAX送信方向

送信先	北海道立図書館 参考調査課・北方資料部	FAX 011-386-6906
発信者	市立図書館	TEL 012-345-6789
	(担当)	FAX 012-345-9876
北海道立図書館システム・ネットワーク(Lis-net) : 接続 / 未接続		

下記の図書資料について、所蔵調査をお願いします。
(有りの場合、貸出しを 希望する / 希望しない)
道立図書館に所蔵されていない場合、他の図書館の所蔵調査は、 必要 / 不要

書名	バカの壁			著者	養老 孟司	所蔵状況	有・無
1 出版者	新潮社	出版年	2003	備考			
情報源	TRCD / J - B I S C / 書籍総目録 / その他 ()						

詳しくは、担当各課(部)へお問い合わせください。

前号で3年間のあゆみを紹介した「市町村図書館職員レファレンス体験研修（略称：レファ研）」ですが、引き続き今年度も実施します。既に50名の方に受講していただきましたが、奮ってご参加ください。

なお、申し込みを希望される方には、別途「申込書」を送付いたします。当課までご連絡を！

平成16年度
「市町村図書館職員レファレンス体験研修」
【実施要項】

今年度もレファレンスに関する実務研修を実施します。
レファレンスは、貸出しと並んだ図書館サービスの柱です。図書館資料を効率的に使い利用者の調査を支援する業務は、便利な図書館をアピールできます。
市町村図書館と道立図書館が連携協力をする事は、よりよいサービスにつながります。共に学ぶマンツーマン形式の研修の創造に、あなたも参加しませんか？
当館の市町村サービスの流れ（リクエスト、調査回答、貸出し、コピー など）をご理解いただくチャンスにもなります。

対象者： 図書館の実務経験が1年以上で、所属長の推薦を得られる者
時期・期間：各月1回。期間は概ね1日以上とし、時期・期間ともあらかじめ決定しない（受講者の希望による設定）。

人数：1回につき1組2名以内

講師：参考調査課職員

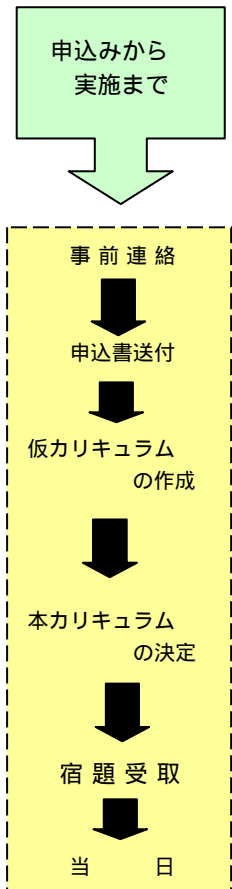
場所：道立図書館参考調査課

内容等：道立図書館所蔵資料及び電算システムを使用します。
レファレンス演習課題（3問程度の宿題）を事前に送付します。
カリキュラムは、研修者の要望に添って個々に作成します。レファレンス業務全般について、どんなことでもご相談ください。

例としては、次の内容も考えられます。

- 道立でのレファレンスの流れ（受付から事後処理）
- ツールの評価と利用（例：地名、人名、法令、判例、統計、国語辞典、または全般的な基本ツールなどの検証）
- インターネット利用のレファレンスの可能性（道立の場合はどうしているの？ 有効なサイト情報）
- レファレンス・インタビューの工夫（こんな時困った道立の例など）
- 相互貸借（道内・道外）のルール情報
- 道立図書館業務用データベース体験
- 自己課題（自館受付）レファレンスを道立資料で調査する。
- 書誌情報・書誌確定の方法（冊子またはデータベースによる）
- 課員との情報交換
- 地域（郷土）資料で調べる。（北方資料部対応）

その他：研修は無料です。その他の経費は参加者負担でお願いします。



申込み〆切は、実施希望日の1ヵ月前です。

NEWS

1 「国立国会図書館総合目録ネットワーク」リニューアル！！

4月28日(水)から、新しいシステム“ゆにかねっと”でのサービスが始まり、サイト全体がリニューアルされました。

参加館の皆さん、新しいシステムの使い勝手はいかがでしょう。

当総合目録の愛称は、参加館による投票により決定したもので、「UNION CAtalog NETwork」から“ゆにかねっと”となりました。

現在の参加館は、全国で840館、内データ提供館は当館を含め49館(平成16年6月8日現在)です。平成16年度新規参加館募集は、5月31日に終了し、道内の市町村立図書館の参加館は次のとおりとなりました。当システムは、総合目録として所蔵館が迅速に調査できるばかりではなく、求められた資料の書誌を確定するツールとして、最も有効なものといえます。

[道内の参加館](42市町)

【市】札幌市、旭川市、網走市、石狩市、岩見沢市、恵庭市、江別市、小樽市、帯広市、北広島市、北見市、釧路市、千歳市、苫小牧市、名寄市、根室市、登別市、函館市、深川市、留萌市

【町】浦河町、置戸町、音更町、上磯町、訓子府町、様似町、静内町、清水町、新得町、滝上町、秩父別町、当麻町、長沼町、美瑛町、穂別町、幕別町、女満別町、門別町、湧別町、由仁町、余市町、留辺蘂町

2 道内公共図書館Web OPAC公開館増加！

Web OPAC(インターネット上の蔵書目録)公開館が、道内市町村においても増加しています。5月25日現在、当課が把握した市町村は次のとおりで、小樽市(地域資料は、未入力)、中標津町、中頓別町などが、新たに公開しました。また、「美唄未来開発センターシステム使用館総合目録」は、比布町が加わり9市町へ、「北見地域図書館ネットワーク研究会横断検索」は、端野町が加わり8町となりました。

相互貸借にあたっては、『道内市町村立図書館(公民館等)貸出条件一覧』(北海道図書館総合目録研究会 平成15年4月)と、新規の公開館には、正確な書誌と請求記号・資料番号などを付記し、マナーを持って依頼しましょう。

なお、新規にWeb OPACを公開の際は、当課までご連絡いただきますと助かります。

[道内のWeb OPAC公開市町村](58市町村)

【市】札幌市、旭川市、石狩市、岩見沢市、恵庭市、江別市、小樽市、北広島市、伊達市、千歳市、苫小牧市、名寄市、登別市、美唄市、深川市、富良野市、三笠市、室蘭市、稚内市

【町村】朝日町、厚岸町、浦幌町、江差町、遠軽町、大野町、置戸町、音更町、清里町、栗山町、訓子府町、小清水町、猿払村、土幌町、清水町、斜里町、白老町、新十津川町、端野町、津別町、当別町、当麻町、常呂町、長沼町、中標津町、中頓別町、羽幌町、美瑛町、比布町、美幌町、平取町、別海町、幌加内町、幌延町、女満別町、芽室町、利尻町、留辺蘂町、和寒町

3 「レファレンス協同データベース実験事業」(国立国会図書館)に参加

当事業は、全国の図書館におけるレファレンスサービスの記録をデータベース化し、図書館の業務や一般の情報検索に役立てることを目的としています。平成14年度の基礎調査・設計に始まり、1.レファレンス事例等をインターネットにより一般に公開することの有効性 2.各図書館のレファレンス事例等を統合したデータベースが、図書館のレファレンス業務を改善・効率化すること 3.レファレンス事例データベースを軸にしたレファレンス業務の協力方法について 4.レファレンス事例等の交換・共有のための標準形式 を項目として検証を行います。

道内では、当館のほか札幌市中央図書館、北海道大学附属図書館、北海道教育大学附属図書館、室蘭工業大学附属図書館、帯広畜産大学附属図書館が参加しています。

参照ホームページ：<http://www.ndl.go.jp/library/collabo-ref.html>

参考資料：『国立国会図書館月報』 No.518 2004.5

4 今年度第1回(春期)移動図書館事業に参加

当課伊藤が「空知・留萌・宗谷地域」の移動図書館の巡回に同行しました。妹背牛町、羽幌町、中頓別町の地区協力センターにお邪魔し市町村の皆さんと交流を深め、各センターにおける研究協議会では、当課へのレファレンス利用の呼びかけを行い、各図書館(室)に「なんでも聞いてみよう! 道立図書館からのお知らせ」(手作りポスター)の掲示をお願いしました。

5 『公立図書館におけるレファレンスサービスに関する実態調査報告書 2003年度』発行

全国公共図書館協議会(事務局:東京都立中央図書館)が昨年10月に行なった「公立図書館におけるレファレンスサービスに関する調査」の報告書がまとまり、今年3月に発行されました。道内の市町村立図書館については、当館から先に送付しておりますので、ご覧になっている資料かと思いますが、レファレンスサービスの実施体制、電子メールによるサービス、レファレンスの処理手順・方法、インターネットの使用、レファレンスサービスの推進についてまとめられています。

公民館図書室等については、当館の資料を借受けてご覧いただけます。ご希望の方は、当館「奉仕課」宛、申し込み願います。(請求記号:015.2/K0)

6 国会図書館、平成15年度利用者アンケート調査結果まとまる

国立国会図書館が、サービス・業務の改善に役立てることを目的として、昨年秋に本館・関西館・国際子ども図書館の来館者、ホームページ利用者、図書館・関係機関を対象に実施したアンケート調査が公表されました。

最近では、他の図書館においても自己評価が積極的に行なわれていますが、国会図書館においては、今年度から導入する評価制度の取り組みの中で、調査により判明したサービスについての改善等を目指すものとしています。それぞれの図書館における“評価”の参考資料としてもご覧いただけます。詳細については、次の資料及びホームページを参照ください。

参考資料:『国立国会図書館月報』 No.516 2004.3
参照ホームページ: <http://www.ndl.go.jp/aboutus/>

平成16年度の参考調査課

4月の定期人事異動により、今年は佐藤、加藤、羽田、宮本、原、伊藤、の各メンバーで頑張ります。今年度もよろしく願います。

この際、一言、記録に留め置きます。

北方資料部長に異動した樋山(前)課長は、平成11年4月着任以降、当館におけるレファレンスの質的向上ばかりでなく、北海道立図書館レファレンス通信『Do-Re』の創刊、「図書館相互協力担当者会議」の開催、「市町村図書館職員レファレンス体験研修」の実施など、道内公共図書館におけるレファレンス活動の普及とレベル・アップ、協力レファレンスの活性化を指向した新規事業の立ち上げに中心的立場で取り組んできました。

私たち課員は、樋山課長の声に背中を押される思いで、勇気を出して挑戦してきました。これらを礎に、さらに発展させることが私たちの責務であると思い、決意を新たに、今後とも努力してまいります。



Do - Re(どうれ) の由縁

“ どうりつとしょかんレファレンス ” の
略から名付けました。

しかしながら

“ どれどれレファレンス ” からとの説もあります。

編集後記

参考調査課（以下、参調）在籍2年目に突入です。先日参加した移動図書館の巡回では、多くの図書館（室）の方々とお話することができ、うれしかったです。

ところで、ワタクシゴトですが、春から家族の会社のパソコンが、ノート型からデスクトップ型に変わってしまいました。今までは、自宅に持ち帰ってもらって私が使えたのに…。ついに参調の備品となるべく、自費購入しなくてはならないのでしょうか…!?! (I)

当館HPに搭載の『雑誌新聞総合目録』を随時更新中です。年度代わりに伴い購入雑誌の変更があった図書館はぜひご一報下さい。(H)

初代編集長の復帰により、晴れて一編集子となりました。今年こそ、ひとつでも多く調査をこなし、実力をつけたいと思っています。インターネットの普及もあってか、寄せられる質問も難しくなっています。精一杯努力して回答していますが、お気づきの点はどうぞ遠慮なくお知らせくださいね。(ひ)

久しぶりの参考調査課。五感を磨かなければという焦燥。図書館現場を見失わないように、話をしよう、出掛けよう、と思うこの頃です。(S)

2年ぶりの参考調査課です。インターネットの普及によるレファレンス環境の変化はめまぐるしく、特に資料の所蔵館を調査するにあたっては、非常に便利になった反面、新たな課題も出てきました。北海道の図書館協力には、道立図書館と市町村図書館、市町村図書館同士がざっくばらんに話し合う必要性を感じます。

さて、今年度の当誌は可能な限り“外の生の情報”を積極的に取り上げていきたいと思っています。次号は、いよいよ通巻20号!“特別号”を予定しております。乞御期待!!(宮)

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 15(通巻19号)

発行年月日 平成16年7月6日

編集 北海道立図書館参考調査課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町4-1番地

TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906

ホームページ <http://www.dokyojoi.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/top.htm>